

## はじめてのウランバートル

留学生別科長 丸山 和美

昨年度、3月のはじめ初めてモンゴル、ウランバートルへ学生募集に出かけました。飛行機は成田からの直行便を使いました。離陸後6時間、到着は夜22時30分でした。

記憶をたどってみると、羽田からハルピンまで約3時間その倍か？ユーラシア北部の地図帳を見ながら遠いなー、ハルピンも秋に訪問の機会がありましたが、この季節すぐ隣のロシアからオホーツク海を流氷が長い旅をつづけ、やがて紋別・網走あたりまで到着いたします。現地の本学卒業生・スフボルトさんに聴くとマイナス20度とか、「ユニクロが何枚いるのかなー」「羊はどうしているのかなー」

13世紀のはじめ、モンゴル高原で遊牧生活を営むモンゴル民族から出たチンギス・ハンは民族を統一して国家を建設しました。その子孫は広大なユーラシア大陸の東西にまたがる大帝（モンゴル帝国）を築き、なかでも5代目フビライ・ハンは都を大都（北京）に移し、国号を元と定めて皇帝となりました。宗を滅ぼし中国全土を支配した元にはヨーロッパから宣教師や商人なども訪れていました。その後フビライは日本を従えようとたびたび使者を送ってきました。

現在でもウランバートルの中央広場には、鎌倉大仏様をひとまわり大きくした像を見る事ができます。初めてのモンゴル、ホテルの暖房？人のながれ、交通事情、第20国立高校の様子・・・不安と疑問は聴いてみましょう。海外にでたらここからだー

街全体の暖房は、大きな火力発電所から各家庭にパイプラインがあるとか、車は日本車の人気が高く、特にハイブリット車の購入が庶民の夢のようでした。羊は郊外にいけばこの寒さのなかでも大丈夫です、笑われてしまいました。お蔭様ではじめての訪問を機に7名の「秋」入学生を迎えることになりました。スフボルトさん奥様のゾルガヤさん（学部卒）テムレン君（別科卒・学部卒）達の熱心な語りかけにより、保護者・学生にご理解を頂きました。入学後モンゴルの学生たちは、積極的に学習姿勢を示し「国際交流会」の催し物にも参加、デルゲルダライ君のホーミー（声帯発生・緊張した喉から発する 笛 のような声）、スフバートナムーナさんによる（頂碗舞・御持て成しの舞・頭の上にミルクティーが入ったお碗を載せたままで踊る）最後まで頭上のカップの中にまさか、ミルクがあるとは思いませんでした、見事な立ち振る舞いでしたねー。

その後、この学生達と話してみると、「携帯電話」を持ちたいとか？しかし日本での条件が厳しいとかで、怪訝な顔つきでした。「忘れ物」学校でも街でもあまり戻らないけど、日本は安全ですねー。「コンビニ」24時間便利ですねー。でも少したかい、この先アルバイトができれば、もっと日本語の勉強になりますねーとか、日本のタクシーは一人乗りです、モンゴルでは行き先が同じ方面なら運転手は乗車させますし、個人車がタクシーに早代わ

りするよーです（白タク）。モンゴル相撲はその家族、一族のなかで素質を見つけて訓練や合宿などをして発掘しているとか？どこか特別な競技かもしれませんね。チンギス・ハンの広場には駐車場が無く、もし車移動が必要ならばフロントに貼った携帯に電話してくださいと張り紙をして、見学をいたしました。大草原の国は垣根が要らないのかなー  
次回は「どんなことも聴いてみよー」 これで私も卒業です。 バイステ